

研究指導・研修等に関する事業一覧

プロジェクト名	担当部門	頁
国際研修「紙の保存と修復」(E09)	修復技術部	95
博物館・美術館等の保存担当学芸員研修(D06)	保存科学部	96
連携大学院(G)	保存科学部	98
博物館学実習(B14)	美術部	99
公開施設の館内環境調査と援助・助言(D09)	保存科学部	100
文化財の材質に関する調査(D)	保存科学部	102
文化財の修復及び整備に関する調査指導(E)	修復技術部	103
文化財の生物被害に対する調査と援助・助言(D)	保存科学部	104
龍門石窟研究所保護研究室研究員の研修(F)	国際文化財保存修復 協力センター	104

国際研修「紙の保存と修復」2002 (E09-02-2/5)

目 的

海外で保管されている日本絵画や書跡など和紙を素材とした文化財は、日本と違った環境の中で長時間保管されてきたために、乾燥による糊離れや絵の具の剥離などの損傷を受けた作品が多い。また、不慣れな取り扱いによって破損する場合もある。しかし、日本美術品の保存修復を行うには、材料・技法などの基礎的理解および取り扱いや修復に関する知識が必要である。本研修は、和紙に関する保存修復の実技演習を通して、研修参加者に絵画・書跡に関わる基礎知識を伝えるものである。

概 要

研修日程 2002 (平成14) 年 10 月 1 日 (火) ~ 10 月 18 日 (金)

研修場所 東京文化財研究所修復技術部第2修復アトリエ

研修対象 紙製文化財の保存と修復を担当する学芸員および保存担当者

研修内容

- (1) 講義 (10月2日~4日、7日~11日): 紙の保存の歴史、修復材料や技術の科学的な見方など、和紙に関して多岐にわたるものとなった。
- (2) 実技 (10月1日~17日): 屏風や掛軸の取り扱い方法、構造、修復材料の調整法および修復技術などについて、実際にそくした研修を行った。また、実技指導にはNPO JCPの協力を受けた。
- (3) エクスカーション (10月12~14日): 和紙の特性を理解するために、高知県立紙産業センター、井野町立紙の博物館などを訪れて、機械漉きおよび手漉きによる製紙工程の見学と、紙漉きを体験した。また、高知県立牧野植物園牧野文庫では紙の保存方法と環境について調査し、今後の母国での保管に関する知識を得た。
- (4) プレゼンテーション (10月18日): 研修最終日に参加者全員による発表会を行った。内容は、参加者の国の紙製文化財や日本絵画・書跡などの保管状況および損傷問題などを発表し、意見交換を行った。

研修参加者 (9名)

シャビントン・ルース	ヴィクトリア国立博物館	オーストラリア
フエンザリダ・マグダレーナ	国立保存修復センター	チリ
カロシエネ・エルヴィナ	アウスロス美術館	リトアニア
ザミット・ルピ・テレサ	マルタ修復センター	マルタ
ラウト・バラット	国立美術館	ネパール
リー・シェウ・ワー	遺跡保存センター	シンガポール
ザン・フレウンド・リン	国立世界文化美術館	スウェーデン
ショッキー・テレサ	国立ウエストヴァージニアパークサービス	アメリカ
ズオン・テイ・アイン	ベトナム民族博物館	ベトナム

< 報告書 > 1 件

『International Course on Conservation of Japanese Paper
2002』 03.3

研究組織

○加藤 寛、齋藤 潮美、須藤 良子 (以上、修復技術部)



実習風景

博物館・美術館等の保存担当学芸員研修 (D06-02-2/5)

(1) 保存担当学芸員研修 期間：2002 (平成14) 年7月9日 (火) ~ 19日 (金) 参加者数 27 名

近年博物館・美術館の数が増加すると共にその施設が近代化し、燻蒸室、保存・修理などの保存に関する設備が整備されて保存部門を担当する職員が配置されつつある。しかし、これらの職員が保存科学の知識や技術を修得しようとしても適当な学習の場がないのが現状である。そのために博物館、美術館などの学芸員の保存担当者を対象に、文化財の科学的保存に関する基本的な知識及び技術について研修を行い、その資質の向上を持って文化財の保護に資することを目的とし、第19回研修会を開催した。

7月9日 (火)

保存科学	総論		三浦定俊
保存環境	各論	—文化財の材質と構造—	佐野千絵
保存環境	各論	—温湿度—	石崎武志
保存環境	各論	—展示・梱包ケースの温湿度調節—	東京国立博物館 神庭信幸

7月10日 (水)

保存環境	各論	—大気汚染とその影響—	平尾良光
保存環境	各論	—光と劣化・照度基準—	佐野千絵
保存環境	実習	—湿度の制御法—	石崎武志
保存環境	実習	—温湿度測定機器の取扱い—	石崎武志
保存環境	実習	—東京国立博物館の資料保全計画—	神庭信幸

7月11日 (木)

調査手法	各論	—構造調査—	三浦定俊
調査手法	各論	—材質調査—	早川泰弘
保存環境	各論	—室内汚染—	佐野千絵
保存環境	実習	—室内汚染の測定法と環境調査—	佐野千絵

7月12日 (金)

劣化と保存	各論	—油彩画—	東京芸術大学名誉教授 歌田真介
劣化と保存	各論	—木造品—	西浦忠輝
劣化と保存	各論	—日本画—	昭和女子大学 増田勝彦
劣化と保存	各論	—紙—	増田勝彦
劣化と保存	各論	—漆工品—	加藤 寛

7月15日 (月)

生物被害	概論		木川りか
生物被害	各論	—文化財害虫同定—	山野勝次・木川りか
生物被害	各論	—生物防除法—	山野勝次・木川りか
生物被害	実習	—殺虫処置—	木川りか・石崎武志

7月16日 (火)

生物被害	各論	—日常管理—	佐野千絵
生物被害	各論	—カビについて—	木川りか
生物被害	実習	—カビの除去—	保存修復支援技術者 絵画・書跡 山本記子、木川りか・佐野千絵
保存環境	実習	—調査1—	佐野千絵・木川りか

7月17日 (水)

ケーススタディ	—博物館・美術館における収蔵・展示の問題とその対策—	三浦定俊・佐野千絵
---------	----------------------------	-----------

7月18日 (木)

劣化と保存	各論	—修復材料—	早川典子
-------	----	--------	------

劣化と保存 各論 —考古資料（無機）—
劣化と保存 各論 —考古資料（有機）—
保存環境 実習 —調査 2—

青木繁夫
青木繁夫
石崎武志・佐野千絵・木川りか

7月19日（木）

博物館の設計と設備—防災・防犯—

三浦定俊

研修参加者名及び所属

浅川 充弘	朝日町歴史博物館	樋口満希子	（財）幕末と明治の博物館
江島 香	柳川古文書館	藤村 忠範	山口県立萩美術館・浦上記念館
川瀬真紀子	（財）田中本家博物館	藤本 雅之	愛媛県総合科学博物館
川瀬 由照	文化庁文化財部美術学芸課	松岡久美子	栗東歴史民俗博物館
川田 啓介	前沢町立牛の博物館	松村 葉子	京都市文化市民局文化部
志賀 太郎	福井市立郷土歴史博物館	三浦 浩樹	長谷寺宝物館
柴田 純江	高崎市美術館	明珍 健二	大阪市立住まいのミュージアム
鈴木映里子	大原幽学記念館	三輪 健仁	東京国立近代美術館
鈴木 博喬	富山県水墨美術館	森田 明子	鳥取市歴史博物館
瀬尾 千秋	高岡市美術館	森 千花	東京都現代美術館
高木 徳郎	和歌山県立博物館	山口 陽子	安田町教育委員会
田中 千秋	兵庫県立美術館	山田美佐子	稲沢市荻須記念美術館
中村 憲	鹿児島県歴史資料センター黎明館	渡邊 晋輔	国立西洋美術館
中山 なち	府中市美術館		

（2）資料保存地域研修

博物館・美術館などの文化財公開施設における資料保存は、保存を担当する学芸員の努力によっていることはもちろんであるが、学芸員以外の館長、事務官や警備員、監視員、空調機器の管理・保守作業員など、博物館の様々な業務に携わる多くの人々の理解がなければ、円滑に進まない。特に2004年末の臭化メチルの全廃に向け、IPM（総合的害虫管理）を実施するために、できるだけ多くの館関係者に文化財の保存に関する基礎的な知識を理解してもらう必要がある。本研修は文化財保護に関する知識を、文化財公開施設に勤務するできるだけ多くの職員に短い日数で学んでもらうため、各地の博物館協議会などの協力を得て1998年度より開催されているものである。

[第8回] 2002（平成14）年6月25日・26日、於：新潟県立近代美術館、共催：新潟県博物館協議会

参加者数 75名

プログラム・講師

保存環境の概論	三浦定俊
温湿度の制御と管理	石崎武志
空気汚染の制御と管理	佐野千絵
照明の制御と管理	三浦定俊
これからの生物被害防除法	佐野千絵

[第9回] 2002（平成14）年12月6日、於：四日市市立博物館、共催：三重県立博物館・三重県博物館協議会、参加者数 64名

プログラム・講師

保存環境の概論	三浦定俊
温湿度の制御と管理	石崎武志
空気汚染の制御と管理	佐野千絵
照明の制御と管理	三浦定俊
これからの生物被害防除法	佐野千絵

(3) 博物館・美術館等保存担当学芸員研修フォローアップ研修、平成 14 年 6 月 17 日、於：東京文化財研究所
参加者 101 名

当研究所で開催している博物館・美術館等保存担当学芸員研修は、昭和 56 年に始まる長い歴史を持ち、これまでの修了者数も 350 名以上にのぼる。それらの修了生の活躍により、当研修は保存科学の知識の普及のために大きな役割を果たしてきた。しかし 2004 年末の殺虫燻蒸剤臭化メチル全廃を前に、生物被害防止対策が予防を中心としたものになりつつあるなど、時代の進展に伴いこれまでとは違った新しい知識が学芸員に要求されている。そこで本研修は、これまでの保存担当学芸員研修終了者を対象に、その職務に必要な最新の知識を常に持てるよう、再研修を行おうとするものである。

プログラム・講師

温湿度制御の考え方—資料の水分量の制御—	石崎武志
照明の考え方—累積照度—	三浦定俊
空気環境の諸問題—室内汚染物質—	佐野千絵
生物被害防除の新しい考え方—IPM—	木川りか

連携大学院—東京芸術大学大学院美術研究科文化財保存学専攻システム保存学教室—(G)

1995 (平成 7) 年 4 月より東京芸術大学大学院と連携して大学院教育を行い、21 世紀の文化財保存を担う人材を育成している。システム保存学教室は、文化財の保存環境を研究する保存環境学講座と保存修復に用いる材料について研究する修復材料学講座の 2 講座から成っている。各講座 3 名ずつ研究所所員が併任教官として研究教育指導に当たっている。

大学院学生の定員は、修士・博士課程ともに各学年 2 名である。2002 (平成 14) 年度は 3 名の修士課程大学院生が在籍した。

(1) 併任教官及び主たる担当授業

保存環境学講座

併任教授 三浦定俊 (保存科学部長)	保存環境計画論 (前期)
併任教授 石崎武志 (保存科学部物理研究室長)	保存環境学特論 (後期)
併任助教授 佐野千絵 (保存科学部生物科学研究室長)	保存環境学演習 (後期)

修復材料学講座

併任教授 青木繁夫 (修復技術部長)	修復計画論 (前期)
併任教授 加藤寛 (修復技術部伝統技術研究室長)	修復材料学特論 (前期)
併任助教授 川野邊渉 (修復技術部修復材料研究室長)	修復材料学演習 (前期)
客員教授 渡邊明義	
助手 是澤紀子	

(2) 文化財保存学演習

2002 (平成 14) 年 4 月 18 日

「文化財の X 線撮影実習」(於：東京文化財研究所)

三浦定俊 併任教授



講義風景

講義は主に芸大で行い、実習指導、研究は当研究所で行っています。三浦教官による保存環境の講義風景。

博物館学実習 (B14-02-2/5)

画家黒田清輝の作品、資料を所蔵・展示する黒田記念館を担当管理する美術部では、博物館学教育に資するため、毎年、博物館学実習を開催している。黒田記念館の性格上、実習内容は日本の近代美術資料に関するものが主となっている。平成 14 年度は下記の日程でおこなわれた。

第 1 日	9 月 9 日 (月)	
10:00	オリエンテーション	美術部黒田記念近代現代美術研究室
10:30	美術史研究と光学的画像	美術部広領域研究室 (津田徹英・山梨絵美子)
13:30 ~ 14:00	東京文化財研究所所蔵の美術資料	美術部広領域研究室長 山梨絵美子
14:00 ~ 14:30	近・現代美術資料の収集・作成の意義と現状	美術部黒田記念近代現代美術研究室
14:30 ~ 17:00	近・現代美術資料の収集・作成	美術部黒田記念近代現代美術研究室
第 2 日	9 月 10 日 (火)	
10:00 ~ 11:00	美術史学研究と情報処理	情報調整室研究員 塩谷 純
11:00 ~ 12:00	展示について	美術部黒田記念近代現代美術研究室長 田中 淳
13:00 ~ 17:00	近・現代美術資料の収集・作成	美術部黒田記念近代現代美術研究室
第 3 日	9 月 11 日 (水)	
全日	近・現代美術資料の収集・作成	美術部黒田記念近代現代美術研究室
第 4 日	9 月 12 日 (木)	
10:00 ~ 11:00	文化財保存について	保存科学部生物科学研究室長 佐野 千絵
11:00 ~ 12:00	文化財の修復について	修復技術部長 青木 繁夫
13:00 ~ 17:00	近・現代美術資料の収集・作成	美術部黒田記念近代現代美術研究室
第 5 日	9 月 13 日 (金)	
10:00 ~ 12:00	近・現代美術資料の収集・作成	美術部黒田記念近代現代美術研究室
13:00 ~ 15:00	近・現代美術資料の収集・作成	美術部黒田記念近代現代美術研究室
15:20 ~ 17:00	美術品の調査について	美術部長 中野 照男
		美術部日本東洋美術研究室主任研究官 勝木言一郎
		美術部日本東洋美術研究室研究員 綿田 稔
第 6 日	9 月 14 日 (土)	
全日	展覧会見学とまとめ	

平成 14 年度は、6 大学から 11 名の実習生を受け入れた。なお、実習生にアンケートを実施し、全員から回答を得、下記に各質問事項についての回答例を示したように、ほぼ全員が満足感を得たことがわかる。

1. 内容の範囲について
保存、修復についてとても興味があったので、お話を聞けてよかったです。
2. 内容の難易度について
難しすぎず理解することができました。
3. 実習環境について
実習生であるのにこのような素晴らしい環境の中で行うことができ、ぜいたくな気分だった。
4. その他、実習についてご意見がございましたら、お書きください。
5 日間あっという間でしたが、普段の講義では決して聞くことのできない、現場での声を聞くことができ、本当に為になる日々を送ることができました。

公開施設の館内環境調査と援助・助言（ D09-02-1/4 ）

国宝・重要文化財などの指定品および東京国立博物館収蔵資料の借用に関して館内環境調査を行い、報告書を作成・提出した。

岩手	一戸町埋蔵文化財センター	京都	細見美術館
福島	福島県文化財センター白河館	京都	宮津市歴史資料館
東京	谷保天満宮宝物殿	京都	八幡市立松花堂美術館
東京	明治神宮文化館宝物展示室	大阪	大阪歴史博物館
東京	刀剣博物館	大阪	美原町立みはら歴史博物館
東京	衆議院憲政記念館	和歌山	和歌山県立近代美術館
東京	大倉集古館	鳥取	「石谷家住宅」展示館
岐阜	光記念館	島根	島根県立美術館
岐阜	岐阜県現代陶芸美術館	徳島	徳島県立文学書道館
志賀	滋賀県立琵琶湖博物館	福岡	北九州市立自然史・歴史博物館

現地調査は一関市博物館、盛岡市埋蔵文化財センター、とちぎ蔵の街美術館、群馬県立歴史博物館、川越市立美術館、戸定歴史館、谷保天満宮宝物殿、国立西洋美術館、明治神宮文化館、文化学園服飾博物館、三溪園、ポーラ美術館、MOA 美術館、八幡市立松花堂美術館、京都国立博物館、「石谷家住宅」展示館、大田庄歴史館、福岡市美術館、熊本市立熊本博物館、西都原考古博物館の 20 館。

また岩手県立美術館など、全国 155 館の新設既設美術館・博物館等文化財展示収蔵施設に対して環境改善に関する相談を受け、助言を行った。これらの館については各館ごとに環境調査ファイルを作成して調査を行っている。

岩手	岩手県立美術館 花巻市博物館（仮） 一戸町埋蔵文化財センター	千葉	戸定歴史館 国立歴史民俗博物館 城西国際大学水田美術館
山形	秋田 秋田市立千秋美術館 米沢市新博物館 山形市新博物館	東京	国立国会図書館 衆議院憲政記念館 日本銀行金融研究所貨幣博物館
福島	福島県文化財センター白河館 郡山市立美術館		国立西洋美術館 東京国立近代美術館 （財）江戸東京たてもの園
茨城	国土地理院地図と測量の科学館 茨城県陶芸美術館 茨城県立近代美術館 （財）水府明徳会彰考館徳川博物館		東京都現代美術館 東京都写真美術館 八王子市役所 武蔵野美術大学
栃木	土浦市立博物館 栃木県立博物館 とちぎ蔵の街美術館 西那須野町郷土資料館 葛生町美術館建設準備室		永世文庫 久米美術館 三康図書館 山種美術館 大倉集古館
群馬	藤岡市埋蔵文化財センター		谷保天満宮宝物殿 刀剣博物館 物流博物館 泉屋博古館東京分館（仮）
埼玉	川越市美術館（仮） 川越市山車保管庫		
千葉	伊能忠敬記念館 大原幽学記念館		

東京	明治神宮文化館宝物展示室	滋賀	大津市博物館
神奈川	神奈川県立金沢文庫	京都	京都国立博物館
	国際協力事業団横浜国際センター		京都市元離宮二条城
	箱根神社収蔵庫		許波多神社収蔵庫
	秦野ビジターセンター		大谷大学博物館（仮）
	ポーラ美術館		（財）細見美術館
	川崎市市民ミュージアム		桂文化財修理工房
	三溪園保勝会		南禅寺
	横浜市美術館		宇治市源氏物語ミュージアム
新潟	新潟県立歴史博物館		宮津市歴史資料館
	新潟市郷土歴史博物館		八幡市立松花堂美術館
	新潟県新美術館		京都服飾文化研究財団
	万代島美術館		醍醐寺霊宝館
石川	石川県九谷焼美術館		泉涌寺宝物館
福井	福井県立一乗谷朝倉氏遺跡資料館	大阪	国立国際美術館
	福井市郷土歴史博物館		大阪歴史博物館
	高浜町郷土資料館		和泉市いずみの国歴史館
山梨	山梨県立美術館		高槻市しろあと歴史博物館
	山梨県立博物館		いずみの国歴史館
	弥勒館		美原町立みはら歴史博物館
	山梨県牧丘町		国立民族学博物館
長野	長野県歴史館	兵庫	姫路市埋蔵文化財センター
	松本市美術館		小野市好古館
	真田宝物館	奈良	奈良国立博物館
	大町市文化財センター		万葉文化館
	御代田町博物館		新庄市歴史民俗資料館
	サンリツ服部美術館		法隆寺百済観音・新宝蔵院
	マリーローランサン美術館		高松塚古墳
	水野美術館	和歌山	和歌山県立近代美術館
岐阜	岐阜県現代陶芸美術館		高野山宝物館
	光記念館	鳥取	鳥取市歴史博物館
静岡	下田市教育委員会		「石谷家住宅」展示館
	佐野美術館	島根	島根県芸術センター
	MOA 美術館		島根県古代文化センター
	資生堂アートハウス		島根県立美術館
	細江町立姫街道歴史博物館		三隅町立石正美術館
愛知	名古屋市立博物館	岡山	勝央町美術館
	名都美術館		岡山県立美術館
三重	松阪市文化財資料館		御津町郷土歴史資料館
	朝日町歴史博物館	広島	大田荘歴史館
	亀山市歴史博物館		尾道市立美術館
	西蓮寺収蔵庫	山口	下関市立考古博物館
	伊勢神宮神宮文庫		萩市郷土資料館
滋賀	滋賀県立琵琶湖博物館		豊浦町教育委員会
	（財）長浜曳山文化協会曳山博物館	徳島	徳島県立文学書道館

香川	東山魁夷美術館（仮）	長崎県立美術館（仮）
愛媛	松野町目黒ふるさと館	熊本 熊本市立熊本博物館
	新水軍資料館	大分 大分市立美術館
福岡	九州国立博物館（仮）	豊後高田市教育委員会
	北九州市自然史・歴史博物館	宮崎 西都原考古博物館
	福岡市美術館	都城市立美術館
	伊都歴史資料館	鹿児島 鹿児島県立埋蔵文化財センター
	王塚古墳	上野原縄文の森展示施設（仮）
佐賀	佐賀県宇宙科学館	沖縄 沖縄県公文書館
	佐賀県立名護屋城博物館	沖縄県立博物館新館
長崎	長崎県歴史文化博物館（仮）	

文化財の材質・構造に関する調査（D）

（1）文化財の材質調査

様々な文化財資料について、その材料や彩色を蛍光X線分析法やICP分析法などで測定して化学組成を明らかにするとともに、X線回折分析法で物質の化学的構造を調査した。蛍光X線分析については、可搬型の装置を用いて、文化財資料が置かれている場所での測定も実施した。さらに、金属製文化財を中心に、鉛同位体比法を用いて材料の産地推定に関する調査を行った。調査終了後には、報告書を作成し、分析依頼元へ提出した。

韓国出土銅製品、壁画顔料他	韓国湖巖美術館	57 試料
インド出土青銅破片	東京国立博物館	1 試料
出土青銅器	福岡市埋文センター	19 試料
銅鐸片、銅釧、銅椀	元興寺文化財研究所	4 試料
銅鏡片	見晴台考古資料館	1 試料
銅鐸	東京国立博物館	1 試料
銅鏡	京都科学	2 試料
十字架、鉛玉	元興寺文化財研究所	7 試料
方鉛鉱、銅鑛、銅鏡	東京大学	1 試料
コイン	岩手県埋文センター	15 試料
朝鮮半島出土青銅器他	東京国立博物館	24 試料
銅鐸ほか	辰馬考古資料館	3 試料
陶磁器の釉	岩手県埋文センター	37 試料
大徳寺飾り金具	東京文化財研究所修復技術部	1 試料
江戸時代ガラス	東京国立博物館	1 試料
キヨッソーネ所蔵青銅器	東京国立博物館	15 試料
銅鑛、銅鏡	東京国立博物館	4 試料
カマン（2002）出土品	中近東文化センター	19 試料
高知県出土青銅器	京都科学	4 試料
中国出土銅製品	奈良国立博物館	60 試料
青銅試料	香港中文大学	22 試料
鏡	厚木市教育委員会	1 試料
高知県出土青銅器	(財)高知県埋文センター	17 試料
鏡	韓国東儀大学校	2 試料

蒔絵螺鈿筆筥	東京文化財研究所修復技術部	1 試料
螺鈿硯箱	目白漆芸文化財研究所	3 試料
文殊菩薩像	東京文化財研究所美術部	1 試料
平等院鳳凰堂板絵	東京芸術大学	1 試料
人体模型	国立科学博物館	2 試料
金銅仏	奈良国立博物館	4 試料
蒔絵鞍	福井市立博物館	1 試料
日本画	三の丸尚蔵館	10 試料
瓦断片	東本願寺	1 試料
江戸時代計測器	国立科学博物館	4 試料
古墳壁画	文化庁	1 試料
出土金属製品	東京文化財研究所修復技術部	5 試料

(2) X線透視撮影による構造調査

	資料名	所蔵者(依頼者)
彫刻	キュンストレーキ	福井市郷土歴史博物館
	金銅仏	石山寺
	木馬	江戸東京博物館
工芸品	十組盤	東京国立博物館
	重要文化財・鉄宝相華孔雀銅象嵌半舌鼓	許波多神社
	刀剣	日本美術刀剣保存協会

文化財の修復及び整備に関する調査指導 (E)

- (1) 国宝高松塚古墳壁画の保存点検 (青木繁夫)
- (2) 特別史跡キトラ古墳の保存活用等に関する調査委員会 (青木繁夫)
発掘された横穴古墳を保存するための覆屋と遺構保存処理の指導を行った。
- (3) 史跡宮崎県西都原古墳保存整備指導 (青木繁夫)
- (4) 史跡千葉市加曽利貝塚住居跡保存整備指導 (青木繁夫)
発掘された遺構の保存処理の指導を行った。
- (5) 群馬県指定梨の木平敷石住居跡の保存整備指導 (青木繁夫)
発掘された住居跡を保存するための覆屋と遺構保存処理の指導を行った。
- (6) 史跡宗麟原塔保存修復指導 (青木繁夫)
宮崎県川南町に所在する石塔の保存修復指導を行った。
- (7) 重要文化財・東大寺山古墳出土中平銘大刀保存修復指導 (青木繁夫)
- (8) 中国博物館蔵「鎮獣墓」の修復指導 (青木繁夫)
- (9) 高德院阿彌陀如来坐像の保存措置に伴う指導 (青木繁夫)
- (10) 史跡原爆ドーム保存技術指導委員会 (川野邊渉)
- (11) 四天王寺板絵の損傷調査と修復方法の検討 (川野邊渉・早川典子)
- (12) 秩父宮スポーツ博物館蔵グライダーの損傷調査と修復方針の指導 (川野邊渉)
- (13) 文部科学省内遺跡出土の三八式歩兵銃の保存処理の指導 (川野邊渉)
- (14) 南極観測船宗谷の搭載艇の修復方針の指導 (川野邊渉)
- (15) 福島県伊達郡梁川町出土の中世漆絵椀の保存と修復についての調査指導 (加藤寛)

梁川町内にある中世の城跡から出土した井戸枠・下駄などの木製品や銀蒔絵で装飾された黒漆椀・漆絵椀などの出土物の歴史的価値および保存方法に関する調査指導を行った。

- (16) 史跡フゴッペ洞窟保存調査委員会（内田昭人）
- (17) 史跡藤ノ木古墳整備検討委員会（内田昭人）
- (18) 史跡有岡古墳群調査整備委員会（内田昭人）
- (19) 第五福竜丸エンジンの防錆処理の指導および環境測定（川野邊渉・森井順之）
- (20) 重要文化財・0.5 トンスチームハンマー（横須賀市）の保存修復に関する指導（川野邊渉・森井順之）
- (21) 愛媛県総合科学博物館蔵「グレイトフォールズ型転炉」の保存修復に関する指導（川野邊渉・森井順之）
- (22) 史跡岩屋観音の保存修復に関する指導（内田昭人・森井順之）
- (23) 重要文化財・碓氷峠鉄道関連施設丸山変電所の修理に関する調査（早川典子）

重要文化財・碓氷峠鉄道関連施設丸山変電所の修理に際してオリジナル木材に残されていた塗装部分の分析を行った。

文化財の生物被害に対する調査と援助・助言（ D ）

文化財の虫・カビ等の被害への対応について問い合わせを受け、指導・助言を行った。（佐野千絵・木川りか・山野勝次・石崎武志・三浦定俊）

- | | |
|---------------------|------|
| (1) 文化財の虫菌害に対する調査指導 | 11 件 |
| (2) 相談受付件数 | 56 件 |

龍門石窟研究院保護研究室研究員の研修（ F ）

目 的

東京文化財研究所では、世界の貴重な文化遺産である中国の龍門石窟の保存について、中国・龍門石窟研究院と協力して調査、研究をしているが、その協力事業の中で、特に龍門石窟研究院の人材育成は極めて重要な課題であるため、若手の研究者を日本に招へいし、石窟の保存修復に関する種々のテーマについて研修を行っている。

研修内容

2002 年度は、まず 2001 年 12 月から国際協力事業団（JICA）の助成により受け入れていた高東亮研究員の研修を、引き続いて 2002 年 8 月まで行った。研修においては、龍門石窟の状況と類似した問題を持つ日本国内の遺跡として、鎌倉市の「やぐら群」をフィールドとし、そこで起きている劣化現象に関して自らの問題意識で解明し、それに対する保存対策を考察していく課程を訓練した。得られた成果は、高研究員自らが筆頭著者として関連学会において発表し、高い評価を得た。その後 2003 年 1 月からは、次の研修生として同じく国際協力事業団の助成により、范子龍研究員の研修を 2003 年 9 月までの予定で行っている。范研究員の研修でも、同じくやぐら群をフィールドとしながら、高研究員が取り上げなかった問題に注目して新たな問題意識のもとに研修を行っている。



高研究員の学会発表風景
（日本文化財科学会第 19 回大会にて）